

掌を指ぐ如く但皇后記は令徳は集船
練玄甲とあればけ色よりも名阿も若い
身を出し一実玉へ渡り凱陣の後皇后の武
徳を感し崩御の後神武を多し事なるこの
よりを後世より一寺を建て皇后山と
い書りりよや皇后実玉は渡りを多し
角を渡りといふ神海玉の時神武を多し
よ八幡宮を多して船武神社なりと云
あれは伝きに足に外は建徳もよ
なる人なり但船武の若く船武の流飛
時海を多しり雨をいふや

一芥田飯

仁嘉保の月より羽翼雨く要害記より曰
坐利芥田所裏より古城あり二五上座
芥田伊豫古城なりと云く一雲宗佐（述）
りり方面より列書てより上り（凡そさるる月
より伊豫古城へ出んこの然る事には
とありけりよと考れば其長中とけ人
よ其位をりりりに元和中より上座
りりり時南城より上りりりや